

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、かえるくんとかたつむりくんの気もちを考えよう。

【二の場面】 本文揭示

かえるくんは、大いそぎで 家へ帰りました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

・かえるくんは、家からとび出しました。

いそがないと。

よし、かえるくんのためだ。がんばるぞ。

○ 「すぐやるぜ。」

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。

かえるくん・・・はやくがまくんを元気にしてあげたい。

いそいでいる。

「大いそぎで」「とび出しました。」

かたつむりくん・・・やる気がある。

【分かったこと・できたこと】

・がまくんのことを思っ手紙を書くかえるくんは、やさしいということが分かった。

【4 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(二の場めん) 活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で、本時の学習内容を確認させる。

2 二の場面を読み、かえるくんとかたつむりくんの会話文を確認する。(個人で↓全体で)

○ 会話文の上に緑(かえる)と青(かたつむり)で○を付けながら確認させる。

※ ここでは、あまり時間をかけすぎないように留意して、一人で考えさせたのち、全体本文に沿って誰の会話文かを確認していきます。

評価 主語のない文章があることに気付かせ、場面の様子を想像しながら読んでいる。

(ウー1)

3 登場人物の気持ちに分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

○ 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

※ 【個人】↓【少数数】↓【全体】の流れは前時と同じです。

※ 動作化をさせると分かりやすいです。

※ 主語がない文が続いていることに気付かせます。主語のある文章と主語のない文章の2種類の文章を音読させ、違いに気付かせます。

※ 主語のない文章の方が、テンポが良く、急いでいる様子を表している。

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

- ・かえるくん・・・早くがまくんを元気付けようと、急いでいる。
- ・かたつむりくん・・・仕事を任されて、やる気に満ちている。

4 読み取ったことを基に、二の場面を音読する。

○ 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。

※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(ハ)を加えながら練習させます。

評価 かえるくんのがまくんを思う気持ちを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

○ がまくんを早く元気付けようと思い、急いでいるかえるくんの様子と、やる気はあるけどゆっくり行動しているかたつむりくんの様子を読み取り、対照的な様子であることをワークシートの振り返り欄で確認させる。

○ 次時は、三の場面を読んでいくことを確認する。